



市民との対話集会（赤れんがの保存・活用）



対話集会とは

「地域の課題は市民の声の中にある。」との考えのもと、現場目線で、施策を推進していくことや、多くの市民の方が、市政やまちづくりを自分事として考え、行動する気運の醸成を図ることを目的として、市民と同じ目線に立ち市政やまちづくりを語り合う場です。

今年度は、次世代の思いを紡ぐ対話集会を2回、テーマ別対話集会を6回開催しています。

テーマ別対話集会～赤れんがの保存・活用～

日時：10月14日（土）14:00～16:00

場所：市政記念館ホール

参加者：発言者7名（傍聴者約30名）

テーマ：①国3棟の魅力とは

②国3棟の活用について

③赤れんがパーク全体に足りないものはなにか

④三角地、17号倉庫の活用（ウエルカム感のアイデア）

パークの全体像について

担当課：企画政策課・文化振興課・観光振興課



主な意見

- 舞鶴には常設の美術館がない為、国3棟を美術館として活用すれば、文化的な雰囲気が生きてと思う。
- 市内には、フードコートがない。色々な食べ物が食べられる場があれば市民も集まるようになるのではないか。
- 駐車場から3～5号棟までが遠いので、レールの跡を活用してミニ列車のようなものを走らせることができれば面白い。料金を徴収すれば財源確保にもなる。
- 来訪者が全てを見るには疲れてしまう。観光目的以外の目線も必要である。また、赤れんがパークだけでなく、市街地・海も含めた全体の計画を立てていくべきではないか。
- 子供の創造性を育み、近代化の歩みを伝えるような機能が必要である。
- 赤れんがハーフマラソンなどの着替えのできる施設を整備し、皇居ランのような活用ができないか。
- 市民向けに、常に人が使えるような習いごとの場として活用してはどうか。
- 17号倉庫は、ファミリー向けのフードコートや売店など、小さな店をたくさん入れた施設が欲しい。
- 博物館前広場が整備され、利用価値が高まっている。そういった中、博物館がああ場所で良いのかという考えがある。全体を考えると飲食スペースがよいのではないか。無電柱化についても検討してほしい。

